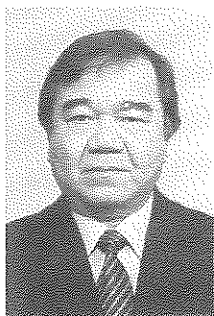


- ◆これからの博物館 當眞嗣一（沖縄県立博物館館長）
- ◆企画展 沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像～
- ◆次の方々から貴重な資料をいただきました／日本博物館協会顕彰表彰伝達式
- ◆博物館に子どもたちがやってきた！
- ◆来年度の行事より



## これからの博物館

當眞 嗣一（沖縄県立博物館館長）

沖縄県には現在大小あわせて70余りの博物館等施設がある。その数は他府県に比べ決して多くない。独自の歴史と文化を有し、観光立県を推進していく本県であればこそもっといろいろな博物館があってもいいのではないか。たとえば、本県の基幹農作物であるサトウキビに関してはサトウキビをテーマにした博物館。また、移民の歴史について勉強ができる移民をテーマにした博物館。あるいは沖縄の銘酒泡盛についての泡盛博物館があり、そこに行けば泡盛のルーツ探しから始まって泡盛の製法や古酒の造り方、泡盛の飲み方や効用、泡盛と生活文化等々、泡盛に関するすべての資料が収集・展示されていて幅広い知識が得られるといったぐあいに。

このように特定なテーマをもった沖縄県ならではの博物館がいろいろ可能であるが、もし、県内にこうした特定のテーマをもった博物館をつくるとすれば、一番おもしろそうなのがグスクの博物館であろう。

2000年12月、グスクを中心とする沖縄の考古遺跡が世界遺産として登録されることになり、琉球王国のグスクは今や世界の宝として高い価値をもつにいたっている。そのグスクをテーマにしぼり、琉球王国誕生の過程で生成発展してきたグスクの資料を収集し、展示する博物館をつくれれば世界遺産の内容や価値がこれまで以上に幅広く発信できるのではないだろうか。

グスク博物館ではグスクそのものの資料以外にも築城技術のこと、石垣のこと、文化遺産としてのグスク整備のこと等々の資料を中心に日本の城や世界

の城のことまで対象を広げ、幅広い視野で資料を収集・展示し、ことグスクに関しては他の博物館ではまねのできない企画運営をしていけばよい。このようなグスク博物館の建設は、観光資源としての世界遺産の活用だけでなく、先人の遺した貴重な文化遺産を保存していくうえでも大きく寄与するだろう。

ところで最近、あちらこちらの市町村でおらが村の博物館建設が盛んである。博物館の建設に取り組んでいる関係者の努力は認めつつも、このままいくと、どの村にも同じような博物館が開館し、利用者からは魅力のない博物館になってしまうのではないだろうか。ましては今後の市町村合併の動向を考えるとほんとうにこのままでもいいのだろうかと思う昨今である。

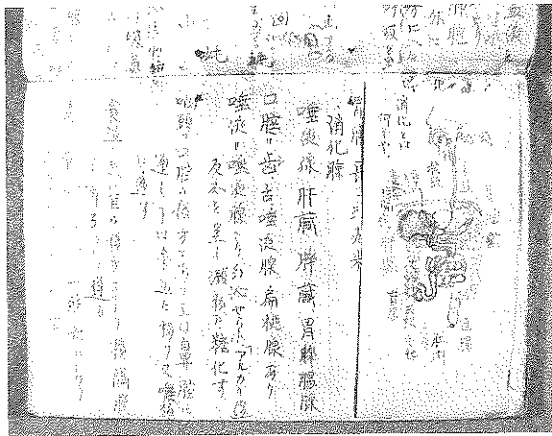
博物館は、収集され展示されている資料の種類によって区分される。沖縄県立博物館の場合は自然、歴史、民俗、美術工芸などの資料を総合的に収集し展示しているので総合博物館といわれる。市町村で今後建設予定の博物館は、必ずしも県立博物館のような総合博物館をめざす必要はないと思われる。あれもこれもといったいろいろな分野にわたって資料を収集し展示しなければならない総合博物館は、それだけ規模も大きくなり多くのスタッフも必要となる。そのためには莫大な費用がかかる。

これからの博物館建設は、「もの」＝博物館資料をテーマごとにしぼり、ある特定のテーマのもとに徹底的にそのテーマに関する資料を収集して個別の「もの」が発信できるユニークで個性溢れる博物館が求められている。

## 企画展 沖縄ナースものがたり～看護学校の青春群像～

平成15年2月4日～3月23日

近代沖縄における正規の看護養成については詳しい資料があまり残っていません。明治28年5月7日発行『琉球新報』に、大木松千代が本県の看護婦のはじめという記事が掲載されるのはその一つです。また、明治期の沖縄県立沖縄病院内には看護婦養成所、赤十字看護婦養成所、産婆養成所があったということです。しかし、その沖縄県立沖縄病院は昭和19年の10・10空襲で焼失してしまいます。また、昭和20年に出された「学徒戦時動員体制確立要綱」により、沖縄の各女学校で簡単な看護訓練が施され総計581名の女学生が従軍看護婦として動員されました。しかし中には全く看護訓練を受けなかった者や離島に帰ることができず参加することになった者など様々でした。

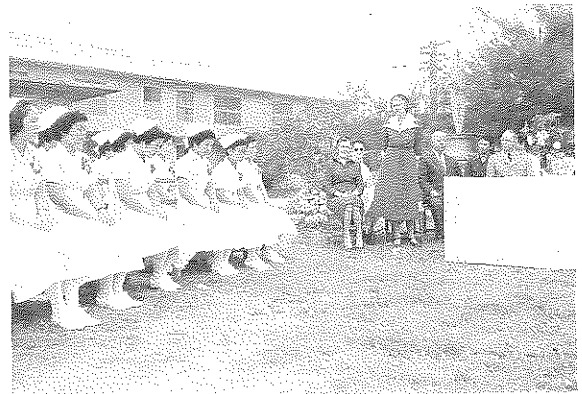


戦時中の看護教育講義ノート

終戦直後の混乱期からすぐに、本格的な看護婦養成がはじまります。1945年8月に出された沖縄諮詢会の声明文から、米軍病院において看護婦補養成の課目がすでに設けられていることがわかります。沖縄諮詢会の声明から約4ヶ月後の12月5日付けの『ウルマ新報』に「病院新設計画」の記事が掲載され、看護養成の教育法については教室での教授並行して実地訓練によると計画されています。翌年の4月に、沖縄中央病院が50名、宜野座病院、名護病院がそれぞれ25名ずつ学生を募集します。その後、宜野座病院附属看護婦学校、名護病院附属看護婦学校、沖縄中央附属看護婦学校がそれぞれ開校しました。戦後の看護教育及び公衆衛生には米軍政府（後に米国民政府）が大きくかかわっ

ており、1950年に米軍政府公衆衛生福祉部に専門員として赴任したワニタ・ウォーターワース氏の功績も大きいといえます。

1950年1月にウォーターワース氏が看護教育指導者として赴任し、その年の3月に宜野座病院附属看護婦学校が廃校となり、52年には名護病院附属看護婦学校が廃校となり沖縄中央病院附属看護婦学校に合併されました。物資や食料など何もかもが不足していた当時、実習用のシーツはメリケン袋をほどいたものを使い、教科書は交代で写本をして勉強していました。しかし、米軍政府の指導援助もあり、年を追うごとに物資の状況もよくなり、学生たちには米国式の実務教育が施されました。また、琉球大学との連携、米陸軍病院や本土、外国への研修など教育課程の整備により、戦後の早い時期から素晴らしい看護職者の人材が育ちました。



青空の下での卒業式（1955年 沖縄看護学校）

1954年、沖縄中央病院附属看護婦学校は病院から独立し、さらに55年に沖縄看護学校と改称します。1959年4月に琉球政府立コザ看護学校と再び改称し、同時に琉球政府立那覇看護学校が新設されました。復帰とともに両校は、琉球政府立から沖縄県立コザ看護学校、沖縄県立那覇看護学校となりました。その後、看護教育の向上と発展を図り、将来は大学への移行も念頭に置いて、1991年、コザ・那覇両看護学校が統合され、沖縄県立沖縄看護学校が開校しました。2002年、県立沖縄看護学校は閉校し、これまでの看護教育及び新たな人材育成を1999年に開学した沖縄県立看護大学に引き継ぎました。沖縄では、ウォーターワース氏が赴任した1950年代に、すでに看護職者の大学卒レベルが目指されていました。県立看護大学の開学は、看護職・看護教育・看護行政に携わる多くの人々の長年の願いが結実したと言えるでしょう。

今回の展示会では、現在にいたるまで保健・医療福祉の最前線に有能な人材を輩出してきた県立看護学校の歩みと戦後の看護教育の足跡を紹介します。

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました（平成14年8月～12月、敬称略）

◆50銭銀貨 50 Sen (Silver) Phoenix 他4点  
平野常雄

◆朱肉（伝：鄭嘉訓使用）他2点  
峯宮城澄

◆絹黄色地総緋着物（真栄城興盛作）1点  
儀保トヨ・新里征子

◆指輪 他3点  
大田征夫

◆パスポート 2点  
岩元洋子

◆両大東島産アホウドリ化石  
大城逸朗・山内平三郎

## 日本博物館協会顕彰表彰伝達式

日本博物館協会では、毎年、博物館の功労者への顕彰を行っております。去る平成14年11月14日の第50回全国博物館大会（於：宮崎県）の席上で、玉那覇有公氏が顕彰表彰され、12月18日（水）、沖縄県立博物館に於いて伝達式が行われました。

玉那覇氏は、伝統を踏まえながら、現代に生かす新しい紅型作品を創作し高い評価を得たことにより、平成8年、重要無形文化財「紅型」の保持者に認定されました。その後、紅型の普及と啓蒙を目的に、県立博物館をはじめ石垣市、浦添市、那覇市へ自らの作品の寄贈を行っています。今回の顕彰は、沖縄県立博物館への寄贈（平成13年度）と、その一連の活動が認められたものです。



## 博物館学習で子どもたちがやってきた！

沖縄盲学校の子どもたち2人は、午前中の学習計画で博物館資料を活用して楽しく学びを深めていきました。最初の学習課題「沖縄にすむ動物」では、鳥の鳴き声をテープで聴きながら、鳥類のヤンバルクイナや哺乳類のイリオモテヤマネコやオオコウモリ、は虫類のハブやセマルハコガメなどの剥製に触れ、形や大きさ、重さを確かめていきました。次の学習課題「昔によく使われていた道具」では、材料となるアダンやクバ（ピロウ）やソテツに実際に触れて学習した後、クバガサ、クバオージ、パーキ、オーダーなどの道具を使ったり身につけたりしながら体験的に学習しました。2人の子どもたちからたくさんの歓声やステキな笑顔を見ることができました。



平成14年度は、完全学校週5日制の実施と、小・中学校における新学習指導要領の全面実施など節目の年になりました。

県立博物館においても、学校による博物館学習が増えており、教科の学習や総合的な学習などで107校の児童生徒10,467人が博物館に来館しました（2003年1月15日現在）。

今回は、沖縄盲学校4年生と佐敷小学校3年生の博物館学習を紹介します。



佐敷小学校3年生は、総合的な学習「子どもの世界」のテーマでの博物館学習でした。当日は、ワラ細工やアダン細工のンマグラー、トゥイグラー、パッチーやはりこ、手まりや大凾など講堂に並べた資料を説明し、さらに解説補助員として応援していただいた博物館ボランティアからも、子どもの遊びを紹介してもらい学びを深めました。

## 来年度の行事より

### 企画展

#### 旅する種子展

～運ばれるための巧妙なしかけ～

7月15日(火)～8月31日(日)

植物は固着生物であるため、その子孫を残すための手段として、種子の散布方法を様々に進化させてきました。親木のまわりにただ落とすだけの方法以外に、風や水、動物などをうまく利用し、「生命のカプセル」である「種子」を遠くまで運ばせるための様々な工夫をこらしたのです。

風分散では、風を受けて飛びやすい綿毛をつけた種子をつけるキク科のタンポポがその好例です。水流を利用するものでは、地球規模で流れる海流を利用するマングローブ植物のヒルギ類をはじめ、サキシマスオウノキやココヤシ、ゴバンノアシ、テリハボク、モモタマナなど数多くの熱帯系の植物をあげることができます。これらの種子は水に浮きやすく、また塩分が直接種子に入り込まないような構造をもっています。

動物分散では、動物の毛や鳥の羽にひっつきやすいように種子の一部が鉤状に変化し、これで動物の体について運ばれたり、また、動物の重要な餌となる果実がいろいろな色や形、味やおいしさを持つことで動物を引きつけ、食べてもらうことでその種子を遠くまで運んでもらうしかけを進化させました。

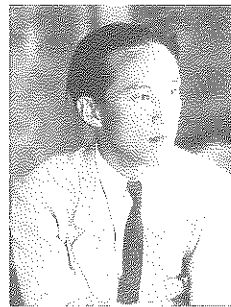
本展示会では、葉や花などと違い地味にみえる種子や果実の姿や形、その働き等を通して、植物の積極的な生きざま、特に繁殖戦略としてのこうした種子の様々な散布様式を浮き彫りにします。

### 特別企画展

#### 沖縄織物へのメッセージ

～田中俊雄の研究～

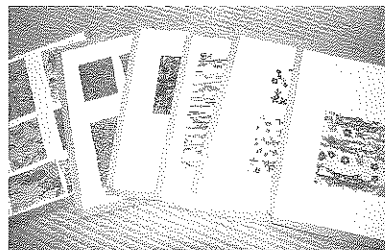
10月28日(火)～12月7日(日)



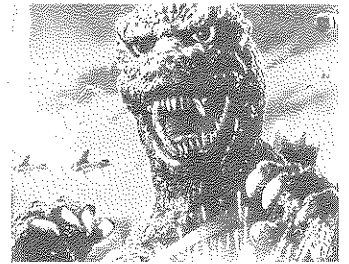
田中俊雄(1914～1953)は、山形県米沢市生まれの染織研究者でした。沖縄の織物を染織史のあらゆる角度から研究した最初の人物です。

田中は、昭和14年、15年と民藝調査団の一人として沖縄を訪れ、精力的に染織の調査を行いました。その結果は、田中没後論文・遺稿を寄せた『沖縄織物の研究』にまとめられ、この冊子は沖縄織物を研究する者のバイブル的存在となっています。

田中の急逝により、彼の研究はここで途切れますが、彼の研究の足跡を追い、収集した染織品を展覧することで、田中が、沖縄の染織をどのようにみつめ、その未来をどのように考察したのかを、没後50年を経た今、改めて再考します。



### 博物館シアター



『ゴジラ』

(夏休み「子ども映画館」上映予定)

県立博物館では、生涯学習の場として県民の皆さんが気軽に足を運び、映像や音響をとおして芸術文化を広く享受できるように県民に紹介する企画として、博物館シアターを実施しております。

平成15年度は、映像で見る「沖縄伝統工芸の世界」と夏休み「子ども映画館」映画で考える「家族」の3シリーズを予定しており、合計7本の映画を午前・午後の2回、講堂で上映いたします。

映像で見る「沖縄伝統工芸の世界」では、世界に誇る沖縄の伝統工芸の技を記録映像で紹介いたします。また、夏休み「子ども映画館」は、児童・生徒を対象とする上映プログラムで、このシリーズでは大型スクリーンによる本物の映画体験を通じて、子どもたちの豊かな情操を育むと同時に、日本映画という国民的遺産の素晴らしさ、楽しさを感じてもらおう企画です。映画で考える「家族」では家族をテーマに製作されたアメリカ映画を紹介し、家族とは何かを考えていただきます。

## その他の企画展・行事

### 企画展

- ◆新収蔵品展 6月10日～7月6日
- ◆沖縄の文化財展「戦前の文化財保護～仲座久雄の活動～」  
平成16年2月10日～29日

◆文化講座：5月～平成16年3月まで月1～2回

◆博物館体験学習教室

「総合的な学習のための黒砂糖づくり・豆腐づくり」  
「竹のおもちゃをつくろう」、「しゅくいシーサーをつくろう」、「ふうたんをつくろう」など6つの講座

## 沖縄県立博物館

〒903-0823

沖縄県那覇市首里大町1-1

TEL (098) 884-2243 FAX (098) 886-4353

http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/

E-mail: oki-muse@nirai.ne.jp

### 利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(ただし、祝日の場合は翌火曜日も休館)、祝日(子どもの日、文化の日を除く)、慰霊の日(6月23日)、展示替え・燻蒸などの臨時休館日

### 交通案内 —那覇空港発—

- ★13番(石嶺空港線)「当蔵」バス停下車、徒歩3分。
- ★125番(知花首里線)「桃原」バス停下車、徒歩10分。

### —市内バス—

- ★1番(首里識名線)12番(末吉線)14番(泊線)17番(石嶺南線)の「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。
- ★9番(小禄石嶺線)の「桃原」下車、徒歩10分。

### —市外バス—

- ★46番(糸満西原線)の「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。
- ★97番(琉大線)の「桃原」バス停下車、徒歩10分。

